

## 2024年度リハビリテーション室活動報告

### 1. 「認定作業療法士取得について」

リハビリテーション室室長 作業療法士 酒井 宣政

### 2. 「九州理学療法士学会 2024 in 佐賀に参加して」

リハビリテーション室部長 理学療法士 早川 亜津子

### 3. 「第 33 回鹿児島県作業療法学会に参加して」

作業療法士 一葉 茜音

### 4. 「第 38 回鹿児島県理学療法学会に参加して」

理学療法士 久羽 真由・小谷 流風・森内 初香

### 5. 「がんのリハビリテーション研修会に参加して」

理学療法士 平田 翔梧・小谷 流風 作業療法士 射場 純香・江口 香鈴

### 6. 「藤田 ADL 講習会—FIM を中心に—に参加して」

理学療法士 向井 大輔 作業療法士 山田 琉奈

### 7. 「第 10 回和音療法研修会に参加して」

リハビリテーション室主任 理学療法士 山口 純平 作業療法士 大田 巧真

# 認定作業療法士取得について

リハビリテーション室 室長 作業療法士 酒井宣政

認定作業療法士とは作業療法の臨床実践、教育、研究及び管理運営に関する一定水準以上能力を有する作業療法士を認定した者（日本作業療法士協会）です。具体的には一定の研修受講とテスト、学術大会への発表や論文投稿を行い審査の後に認定されます。日本には作業療法士の有資格者数は11万8471名（2024年8月1日現在）ですが、認定作業療法士は1682名（2025年3月1日現在）となっています。九州地区では全国でも少なく、鹿児島県内では23名に留まっています。これは新型コロナ禍以前の研修開催が対面研修のみで東京や大阪など大都市での開催されていた背景があります。

私が認定作業療法士取得を目指した理由は、作業療法を深く知り後輩たちへ伝えていくことが種子島の作業療法の発展に有効なのではないか？と考えたからです。作業療法は疾患や障害だけでなく、食事、排泄などの日常生活行為、料理、洗濯などの日常生活関連行為、仕事、遊びや趣味活動など対象となる方々の暮らしの中で行われる全ての生活行為に着目し支援に当たります。

作業療法は対象者の暮らしの困りごとに幅広く対応できるという強みがある一方、作業療法って何なのだ？ということに対して曖昧で作業療法士以外の職種に説明し辛い所があります。そのため、より深く作業療法を知ることによって後輩達へより深く作業療法を伝えることが出来ると考えたからです。さらに、私は新型コロナ禍以前から認定作業療法士取得を目指し始めていましたが、対面研修受講の為の移動時間、交通費や宿泊費が個人的にも当院にも負担となる事実がありました。しかし、新型コロナ禍以降は対面研修からオンライン研修への移行が進み、鹿児島県の離島である種子島でも認定作業療法士取得の大きな障壁が無くなりました。種子島の後輩達にも認定作業療法士取得は努力を続ければ誰でも可能ということを示すことが出来ればと考えたということも理由の一つです。

しかし、作業療法を知れば知るほどその奥深さを知るばかりです。対象者のためになっているのか？という疑問を常に持ちつつ業務に当たっているという現状があります。作業療法って何だ？という回答にはまだまだ至りそうにありません。後輩達と作業

療法に悩みながら一緒に考え深めているところです。

私にとって認定作業療法士は取得に至る過程に意味が有ったと感じています。作業療法って何だ？という答えこそは出ませんでした。より深く作業療法を捉えることが出来、それを後輩達へ共有することで後輩達のスタート地点がより答えに近いところに近付くかも知れません。また、数名の後輩から認定作業療法士を目指したいという声を聞くことが有ります。あくまで本人の努力では有りますが、その支援に当たることが出来ればと考えます。これらは、種子島の作業療法の発展に有効だったと考えます。今後はさらに、種子島だけでなく鹿児島県内の作業療法の発展に寄与出来ればと考えています。



## リハビリテーション室部長 理学療法士 早川亜津子

2024年11月9日・10日に佐賀県 SAGA アリーナで開催された「九州理学療法士学会大会 2024 in 佐賀」においてポスターセッションに参加をさせていただきました。

セッション演題は「カラーマスクで勤務形態を見える化した業務改善～ポジティブラベリング効果と間接プライミング効果で退社時間は早くなるのか？」を発表しました。内容は、回復期リハビリテーション病棟において早番勤務、遅番勤務、通常勤務の3つの勤務形態をカラーマスクでわけることでみられた変化や業務改善をまとめました。昨今の働き方改革のおかげで他施設においても業務改善は喫緊の課題となっており、発表後もたくさんの質疑を受け充実した発表となりました。

研究前発表の段階から高尾病院長にたくさんの助言を頂戴し、また研究データ収集には総務課の串間さん、能勢さんにもご協力をいただきました。

「カラーマスク導入」という新たな取組みに対し、ほとんどの療法士が快く協力してくれました。発表に際し協力してくださった方々に感謝いたします。

昨年、若い理学療法士トリオが学会発表にチャレンジする姿を見て私も学会発表をしようと決意しました。私も発表までの姿や発表が誰かのチャレンジを後押しできると嬉しく思います。



## 第 33 回鹿児島県作業療法学会に参加して

リハビリテーション室 作業療法士 一葉 茜音

令和 6 年 9 月 7 日から 2 日間鹿児島大学医学部鶴陵会館で開催された『第 33 回鹿児島県作業療法学会』に参加し、パワーポイントとポスターを使用した発表と学会の聴講をさせていただきました。入社後 1 年目に種子島で行われた学会に参加した際に先輩の発表を聴講し、学会発表を一つの目標としていました。

今回「腱板断裂損傷後、右心原性脳塞栓症により片麻痺を呈した症例」について発表させていただきました。2 年目に担当させていただいた患者さんで、色々な阻害因子がありながら趣味を再開し、日常生活での患側の使用頻度が向上して自宅退院につなげることができ自信につながった症例でした。

介入中は悩みながらも色々な方に助けていただきながらアプローチを行ったこともあり、治療内容、効果をまとめて発表してみたいと感じ、今回参加させていただきました。準備期間では、パワーポイントとポスターの両方を使用した初めての形式で分からないことが多く、先輩方や同期にアドバイスや励ましの言葉をいただいたことで、本番当日まで頑張ることができました。

発表中はとても緊張して覚えていません。発表後の質問では治療法に関する質問や助言をいただき、今後の臨床の参考にしたい、もっと詳しく知りたいと思える機会になりました。聴講時は「作業療法の評価、治療をみつめなおす」という学会テーマを元に、評価の必要性を深く考え、評価に沿った治療法を学ぶことができ、今後の臨床場面でも実践していきたいと感じました。

今回の学会の聴講、発表を通し多くのことを学ぶことができ、今後の臨床に対するモチベーションに繋がりました。今後も今回発表した治療法の理解を深め、よりよい医療を提供できるようたくさんの方を学び経験していきたいと思えます。



## 第 38 回鹿児島県理学療法学会に参加して

リハビリテーション室 理学療法士 久羽真由・小谷流風・森内初香

今回、第 38 回鹿児島県理学療法士学会に参加し口述・ポスター発表と学会の講演を聴講させていただいたためここに報告します。

### <学会内容>

テーマは「PHISICAL THERAPIST IS FUN～進取の心～」です。「進取の心」とは先人の意思を受け継ぎ自ら困難な課題へ果敢に挑戦し積極的に新しい物事に取り組む気質や性格を示しています。「それぞれの想いをかたちに」するためには先人たちが積み重ねた知見と新しい研究が融合し科学反応を起こす事で最大の効果を発揮させる必要があります。また、演題発表や講演を通して意見交換し今後の臨床や研究へとつながる新しい (FUN) 学会にしたいとの意味が込められています。

### <感想・今後の抱負>

#### ○久羽真由

私は今回、初めて対面式での学会に参加し「β 溶連菌感染症による右膝関節炎を呈し独歩獲得に難渋した症例」を題名にし、口述発表をさせていただきました。会場に入った際の緊張はありましたが、発表直前は隣に発表を控えている方もいて初対面の方と会話をすることで緊張がほぐれていました。発表の準備から発表当日まで、先輩方や他のセラピストからのアドバイスや意見をいただいて症例に対して他に考えられることやパワーポイントはどのようにしたら見やすいかなど多くのことを学ばせていただきました。色々な方に助けられながら乗り越えられたと感じています。今回の発表で大人数の前で自分の意見を言える貴重な経験をでき、一つの自信に繋がりました。「挑戦してみる」という気持ちを忘れずに精進していきます。このような学会に参加させていただき感謝しています。

#### ○小谷流風

2 年目では絶対に挑戦しようと考えていた県学会。「外傷性股関節脱臼を呈した一症例～外旋筋群に着目したアプローチ～」というテーマで口述発表を行いました。発表の前の資料作成、発表準備など上司や職場の先輩方に助けていただき、無事に期限内に

準備することができました。発表当日は学生時代の友人や学校の先生方、実習先のバイザーの先生方とお会いすることができました。学校や実習先の先生方に「頑張っているな」との言葉をいただき、改めて県学会に参加して良かったと思いました。初めて県学会という場に足を踏み入れ、実際に自分が壇上に立ち発表を行いました。会場では出会いや気付きなど自分にとって良い経験ばかりの場でした。今回の学会を通して九州や全国、各専門分野での学会への参加、挑戦などもしていきたいと強く思いました。

#### ○森内初香

今回初めて鹿児島県学会という院外での大きな発表に挑戦しました。私はポスターの発表で「大腿骨頸部骨折受傷後、1 カ月間自宅での寝たきりの生活を送り、人工骨頭置換術を施行した症例～易脱臼性に対するアプローチ・杖歩行獲得を目指した取り組み」という題名で発表させていただきました。ポスター発表はグループでの発表であり 5 演題中 3 演題目の発表でした。順番が迫ってくる度に緊張感が高まり上手く発表できるか不安でしたがそれと同時に 1 から頑張って作成した物であった為、胸張って発表しようそんな気持ちで発表に挑みました。7 分間という決まった時間内での発表でありあっという間に時間は過ぎました。色々な先生方から質問やアドバイスをいただく中で「島ならではの環境であることや特色がみられる発表だった」というお言葉を頂きました。ディスカッションをしていく中で自分の意見を伝えていく楽しさや達成感を感じました。準備期間は大変な時間もありましたが先輩方にアドバイスを頂き仲間に支えられながらポスター発表という大きなことに挑戦することができました。今回の学会発表で学んだことを今後の臨床で活かしていきたいように日々精進していきたいと思えます。



# がんのリハビリテーション研修会に参加して

リハビリテーション室 理学療法士 平田翔梧・小谷流風  
作業療法士 射場純香・江口香鈴

今回の研修会には、Dr.金城、Ns.吉永、リハビリテーション室から平田、小谷、射場、江口が参加しました。研修内容はEラーニングによる16項目の講習と集合研修ではオンラインによるグループワークを行いました。集合研修では、がんのリハビリテーションの問題点、模擬カンファレンス、がんのリハビリテーションの問題点の解決をグループワークで行い、オンライン上で他施設へ発表を行いました。



## 【取得の動機と今後の抱負】

### PT 平田：

今回、がんのリハビリテーション研修に参加させていただき「がんのリハビリテーション」についての理解を深めることができました。研修を通じて自分の中のリハビリテーションの幅を広げることができたと感じています。現在は「がん」を患っている方へリハビリテーション介入させていただいておりますが、上手いかなことや、介入をしないほうが良いのではないかとまだまだ悩むことも多いです。しかし、そういった経験が患者様にとってプラスになるようにセラピストとして患者様に何ができるかを考え、これから更により良いリハビリテーション介入ができるよう精進したいと思います。

### PT 小谷：

理学療法士という免許だけでは関わることのできないがんのリハビリテーション。身近でも耳にする「がん」というものに医療者として自分も携わっていきたいと思い研修に参加しました。実際に臨床に立ち、患者様と関わる中で、悩むことやぶつかるこ

とが沢山あります。普段のリハビリとは違った緊張感もあり、不安も沢山ありますが、とても良い経験が出来ていると思います。これからも「がん」、そして「がんのリハビリテーション」知識を深め、経験を積み、患者様一人ひとりにあったリハビリテーションが提供できるようにこれからも励んでいきたいと思っています。

### OT 射場：

私が今まで担当させていただいた患者様の中には併存して「がん」を患っている方がいました。経験はもちろん、がんに対する知識も少なかったため、患者様やご家族とどのように関わっていくべきなのかわからなくなることがありました。早川部長、酒井室長から声をかけていただいたおかげで今回がんのリハビリテーションについて学ぶことができました。現在の臨床の中では研修で習得したことだけではなく、患者様やご家族からも様々な事を学びながらがんのリハビリテーションに携わらせていただいております。これからももっと多くのことを学び、作業療法士として何ができるのかを考え続けながら経験を積んでいきたいと思っています。

### OT 江口：

以前より認知度が上がってきている「がん」を身近で関わる機会があり、がんのリハビリテーションを勉強することは不安が強く、避けてしまう分野でした。しかし、今後も多くの人たちが発症する可能性がある「がん」に対し、自分が作業療法士としてどう関わっていけるかという面から、お声掛けがあった際に研修に参加することにしました。今後、がん患者様と関わっていく上で、精神面や状態に合わせた環境調整、家族との関わりなども併せて考えていけるようにしていきたいと思っています。また、患者様本人に寄り添いながら、患者様や家族のニーズに合わせた、より良い生活が維持できるよう知識を増やし経験を積みながらリハビリテーションを進めていきたいと思っています。

# 藤田 ADL 講習会—FIM を中心に—に参加して

リハビリテーション室 理学療法士 向井 大輔  
作業療法士 山田 琉奈

## 〔講習会・FIM について〕

今回、令和 6 年 11 月 24 日に藤田 ADL 講習会—FIM を中心に—に PT 向井と OT 山田が参加させていただきました。講習会は ZOOM を使用したオンラインでの参加となりました。

日常生活活動（ADL）とは、ひとりの人間が独立して生活するために行う基本的な、しかも各人ともに共通に毎日繰り返される一連の身体的動作群のことをいいます。ADL 評価の目的として、自立度と介護量を知る・アプローチすべき内容を知る・治療計画を立てる・治療効果を判定する・帰結を予測する・他施設、他職種との情報交換（共通言語）が挙げられております。ADL を改善することで、個人の自由度が増し QOL が改善するといわれており、広い視野では介助者の負担軽減につながり、社会的コストが減少する意味があります。

ADL は「できる ADL」と「している ADL」で考えられており、FIM は「している ADL」を評価します。「できる ADL」は実際の生活とは離れたテスト場面での能力ですが、「している ADL」は実際の現場での活動状況（能力）を診ていきます。

FIM は運動項目 13 項目と認知項目 5 項目の全 18 項目で評価します。各項目を自立（7 点）～全介助（1 点）で評価し、18～126 点（全介助～すべて自立）で測定します。FIM の対象は、疾患対象は特にありませんが、対象年齢は 7 歳以上とされています。7 歳未満は WeeFIM という子供の為の FIM を用います。

## 〔感想〕

### ○向井大輔

藤田 ADL 講習会にて FIM について勉強させていただきました。普段から FIM の採点を患者様ごとに毎日行っておりますが、悩ましいところなど多く、感覚で点数を付けているところもあったと思います。

今回の講習会はベーシックコースで、1 項目ずつ採点の基本、おおまかな例などをあげて説明していただけたので、臨床上悩んでいた部分を解決できる部分もありました。しかし実際のケースでの点数の

付け方とかではなかったため、点数をつけきらないような場面も今後あるかと思われまます。FIM について学びを深め、普段の FIM の採点をより正しくつけられるように日々研鑽していきたいと思ひます。

また、客観的な評価をしっかりと行い、多職種で共有できるようにしていきたいと思ひます。

### ○山田琉奈

藤田 ADL 講習会にて FIM について勉強させていただきました。

FIM は毎日の業務において行う評価であるため、自分では慣れているつもりでいましたが、研修を受けて、特に排泄・排便コントロールや認知項目については、しっかりと理解できている部分が少なかったと実感しました。

また、講習会のなかで実際に評価を行って、どのようなこと注意して評価を行うべきか、どんな部分をみて評価を行うべきかを細かく学ぶことができました。

今回の講習会で学んだことを多職種間で共有しながら、日々の介入で各項目の評価に慣れ、見つかった課題をリハビリテーションに取り入れていきたいと思ひます。

リハビリテーション室主任 理学療法士 山口純平  
作業療法士 大田巧真

### 【和温療法とは】

和温療法とは、「和む・温もり」療法で、全身を気持ちよく温める療法である。

和温療法は室内を天井～床までほぼ均等の 60°C に設定している遠赤外線乾式均等乾式サウナ器(室)で和温浴を 15 分間施行後(この時点で深部体温は約 1.0°C 上昇)、出浴してからベッドで仰臥位となり、30 分間の安静保温を施行する。利用前後に体重測定を行い、体重差から発汗量を測定して発汗量に見合う水分を補給する。

和温療法は「健保承認済みの温熱療法」であり、温熱性血管拡張による全身の血流改善にあり、心疾患や脳血管、運動器、呼吸器疾患にも有益なことが広く知られている。

### 【研修会に参加しての感想】

#### ○山口純平

今回、和温療法研修会を受けるに当たって、受講前の認識では、心不全患者に温浴などの療法を用いて大丈夫なのか、効果はどうか、疑問点も多くありましたが、研修会を受け、和温療法に対する認識が 180° 変わりました。症例数は少ないですが、動物実験や臨床試験により、和温療法の効果や安全性が確認されていることや心不全の患者は勿論、筋痛性脳脊髄炎や慢性疲労症候群、脳変性疾患に対しての治療法効果やコロナ後遺症患者へ実施しているとのことで、色々な可能性がある治療法であることがわかりました。この研修会が学んだことを今後も生かして行きます。

#### ○大田巧真

和温療法の研修会に参加させて頂きありがとうございます。和温療法は多様な疾患に適応しており、ローリスク・ハイリターンの印象を受けました。また、症例紹介の中で劇的な改善が見られた方と当院に入院している患者は似たような状況の方も多く、快刺激で良い結果を出せる和温療法は高齢の方にも負担なく実施可能で種子島でも多くの患者に還元することができると感じました。